

つなぐ つたえる 地域農業

2022年2月10日発行

No.32

十日町市農業委員会

妻有のきずな

十日町市農業委員会だより



ウーマンファーマーズジャパン
women farmers japan (株)

佐藤 友美 (37)
さとうともみ

兼業農家の家に生まれた友美さん。農家にだけは絶対にならないと決めていたのに、就農の道へ。その決め手は「大根」でした。

都会で初めて食べた、よその大根。その苦さに驚いたそうです。友美さんの中に当たり前にあった食生活は、両親や祖父が必死に畑で作ってくれた野菜のおかげだったと気付いたのです。

そしてUターン後に祖父が倒れ、畑の継続が難しくなったなか、「私がやる」と自然と口から出てきました。

現在はwomen farmers japan(株)取締役として、仲間たちとさつまいもの栽培、加工、販売と奔走しています。

今後はまず、会社を継続していけるように、また、十日町市のさつまいもを名産品にすべくしっかり頑張り、その上で両親や祖父が私にくれた食の当たり前を、息子にも与えたいと話してくれました。

「小さい規模の農家だからこそできる色々な品種の野菜を作り、私が当たり前で経験してきた食を母が経営している飲食店『越後妻有のごちそう家ごったく』を通じて色々な方にも食べてもらいたい」と意気込みを語ってくれました。



当たり前にあった
おいしい食を伝えたい

技術向上、園芸導入など さらなる経営の安定化に向けて

■年頭のご挨拶



会長
村山 隆義

向春の候、穏やかな年明けを迎え、皆様ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

一昨年は新型コロナウイルスの感染拡大で生活様式が一変し、昨年も引き続き感染拡大を抑えるために新しい生活様式の徹底や、各種イベント、催事の中止や延期がなされる中、新たな変異株が流行するなど、未だ終息の気配もなく、不安な年明けとなりました。

近年ではラニーニャ現象など、様々な気象現象の影響により、農作物にも多大な被害がありました。こうした気象現象にも耐えられる技術や土づくりが求められています。さらに生産者の「需要に応じた生産・品質向上」により、

選ばれる産地を目指して、厳しい産地間競争にも生き残っていかなくてはなりません。

新潟県農業再生協議会によると、主食用米では二十二年産米は二十一年産米よりも三・二%削減を目安として、さらなる作付け転換強化を打ち出しています。今後は園芸作物の導入など複合化を行い、さらなる経営の安定化が求められています。

さて、私も農業委員会は、遊休農地の発生防止・解消、違反転用の是正、農地利用最適化を推進し、農地の集積・集約化など「人・農地プランの実質化」に取り組んでいます。また、今後多様化する地域の課題に対応した「見える農業委員会」「行動する農業委員会」を目指した活動を行っていきたいと思いますので、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の終息を願うとともに、皆様の健康を祈り、穏やかで稔り多き年でありますようお願いいたします。

全国農業新聞



ここが嬉しい！全国農業新聞

農家の経営や暮らしに役立つ情報もりだくさん！

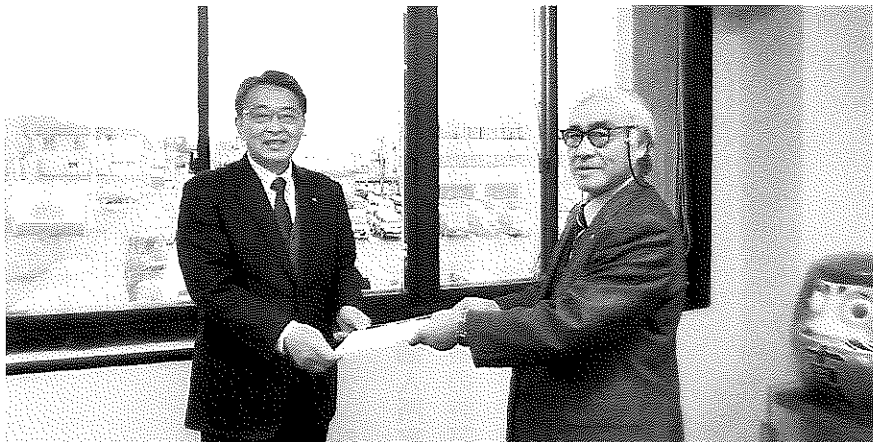
- ◆オールカラーで「見やすい」「分かりやすい」！
- ◆見本誌や購読お申し込みはお近くの農業委員・農地利用最適化推進委員または農業委員会事務局まで

毎週金曜日発行 B3版 8~10p 購読料：月 700 円（送料・税込）



農業委員の活動がわかる！
トピックス

農地等利用最適化推進施策に関する 意見書を提出しました！



令和3年12月15日 関口市長に意見書を提出

農業委員会活動の中で農業者から受けた意見などを集約し、農政部会の委員を中心に作成した「農地等利用最適化推進施策に関する意見書」を、関口市長に手渡ししました。あわせて各種補助事業の拡充など十日町市独自の施策への取組についても要望しました。

認定農業者・新規就農者との交流会に参加しました！



研修会の様子

十日町市認定農業者連絡協議会が主催する研修会が令和三年十二月十三日に開催され、農業委員会から振興部会の委員も参加しました。

研修会では「中山間地域農業の振興について」や「鳥獣被害対策について」などの講演に続いて新規就農者や地域おこし協力隊の方々と交えての交流会が行われました。

コロナウイルス感染拡大以降、こうした研修会は実施できませんでしたが、感染症対策をした中で参加者は意見交換をしていました。

農業委員会大会に参加。 情勢変化に合わせ、農業委員も役割拡大を

令和三年十一月二十二日、新潟県新潟市朱鷺メッセにおいて新潟県農業委員会大会が開催されました。昨年に引き続き規模が縮小され五百三十人の参加者でした。

大会では全国農業会議所の柚木茂夫専務理事から講演がありました。柚木氏からは「人・農地関連施策」の見直しが行われ、中心的経営体だけでなく「半農半X」など多様な担い手の確保が重要となること。またSDGsや環境を重視する世界的な潮流の中、国が「みどりの食料システム戦略」を策定し、持続可能な食料システムの構築が急務とされること。更に「相続土地国庫帰属法」の成立など人口減少社会における土地関連法制改正の動き等について説明がありました。

農業を取り巻く情勢の大きな変化と農業委員に求められる役割の重要性を再認識させられた今年度の大会でした。

(農業委員・庭野 喜由)

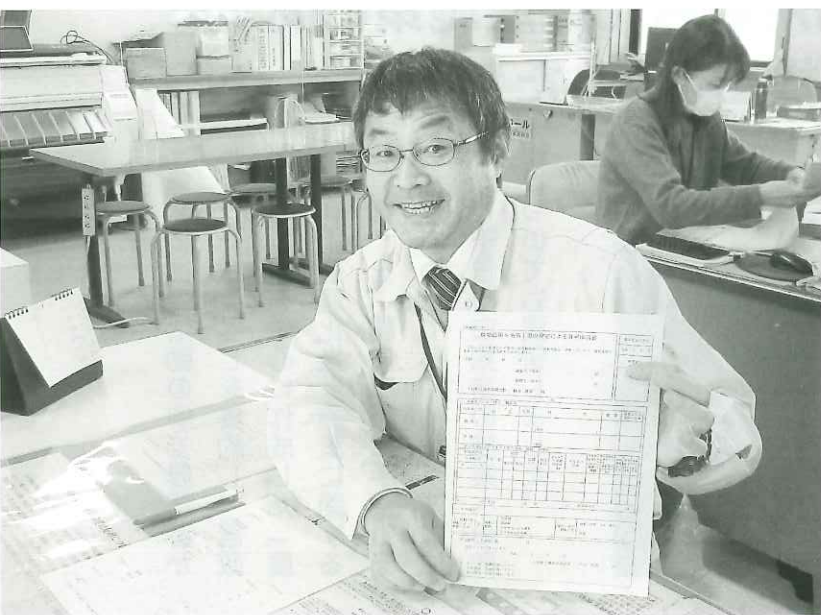
農業委員会からの お知らせ

農地に関する相談は
農業委員会事務局へ

農地に建物を建てたい。 どうする？

今回は「農地転用」についてご説明します。「農地転用」とは、農地を住宅や車庫、駐車場、資材置場など農地以外の用途にすることです。

農地は「農地法」により、**個人所有地でも転用する場合は農業委員会の許可が必要**になります。今回は農地転用許可申請にあたり、手続きの流れなどについてお知らせします。



農業委員会事務局 富井 悟

／ やること ／

1、その土地は農地か？

最初に農地かどうかの確認が必要です。現況が農地として管理されている場合と登記簿地目が農地になっている場合は許可申請が必要になります。

／ やること ／

2、農業振興用の農地か？

次に、「農振農用地区域内農地」の確認をします。ほ場整備が行われたり、農地がまとまっている区域などは、農業の振興を図るための農地として指定されていることから、農地転用が難しい土地となりますので、注意が必要です。

／ やること ／

3、転用許可要件はOK？

農地の所在地によって「農地区分」があり、転用目的によっては、転用ができない場合がありますので、農地転用をお考えの方は事前に農業委員会事務局へご相談を。

**転用には時間がかかるため
事業計画は余裕を持って！**

これらを確認したうえで、農

地転用をする場合は**毎月十日までに「許可申請書」と「添付書類」を農業委員会事務局へ提出**していただきます。申請に必要な書類は下記に記載しましたが、申請者が法人か個人か、または転用目的によって添付する書類が変わる場合がありますので注意が必要です。

申請後には、農業委員による現地確認や内容の確認が行われ、毎月二十五日に開催される農業委員会総会で審議され、許可証が交付されます。

このように農地を転用する場合は時間と手間がかかりますので、事業計画を立てる際は注意してください。

農地転用許可申請に必要な書類等

許可申請書 / 登記事項証明書 / 更生図の写し / 位置図 / 住宅地図などの写し / 施設配置図 (利用計画図) / 平面図 / 立面図 / 資金計画申出書 / 資金調達についての証明書類 / その他申請者や転用目的によって必要書類がありますので、農業委員会事務局までご相談ください！

解説します！

今年からさらに便利になる 農業者年金



月額 2 万の保険料って結構負担...もっと安くないかなあ？



1 月から、**35 歳未満の方は保険料が月額 1 万円から加入できるようになりました！** 認定農業者等に該当しないなど、一定の要件を満たす必要はありますが、納付下限額が引き下げられ、加入しやすくなりました。



就農したばかりの人に、お得になったね！
年金の受け取りも、変更になるって聞いたけど...？



はい！昭和 32 年 4 月 2 日以降に生まれた方で、受給要件を満たした方は、今年の 4 月から**年金の受給開始時期を自分で選ぶことができるようになりました！**



なるほど。
便利になったのに、わたしにはもう関係ないか...



そんなことはありません！なんと 5 月からは、**65 歳未満の方**
も加入できるようになります！ 農業者年金の加入要件は、農業に年間 60 日以上従事する方で、20 歳以上 60 歳未満の国民年金第 1 号被保険者ですが、60 歳以上 65 歳未満で国民年金に任意加入している方も農業者年金に加入できるようになります！



なんと！それは詳しい話を農業委員会に聞きに行かねば！

ご相談については最寄りの農業委員会か JA または農業者年金基金にお問い合わせください。

寅年まれの年男からひとこと



佐藤 達次郎

農地利用最適化推進委員
(松代地区)



小海 雅秀

農地利用最適化推進委員
(吉田地区)



長津 俊男

農業委員
(川治地区)

過ぎし12年間は勤めを退職後、米と野菜作りをしてきた。縁故米や青空市場への出荷もやってみた。

これからの12年間は経験を活かし、なんとか現状を維持して行きたい。

地域の先輩方も80才過ぎまで農業をやっているのを見習いたい。

しかし地域の現状は農業従事者の減少、耕作放棄地の増加となっており、全国的には米の消費の減退、食料自給率の下落となっている。私や私達の後を継いでくれる後継者は期待できそうもなく荒野となってしまうようだ。

朝はパン、昼は麺、夕飯にやっとうごはん一杯というような食生活を改善し、ごはんの回数を増やしてほしい。そんな方向に導く農業政策を期待し、もう一まわりガンバリたい。そんな気持ちで農地利用最適化推進委員を務めていきたい。

吉田地域の北部地区を担当して居りますが、中でも私の集落は耕作者の減少と過疎化は深刻です。子供達の笑い声が聞こえない村はとても寂しく感じられ、それならば子供達に来てもらおうと体験活動を楽しむ「里山わらび(笑躰)」を企画しました。活動の一つとして始めた「無農薬無肥料」の米作りは六年目を迎えます。安心安全なお米を子供に食べさせたいと岐阜、広島、東京の里山わらびメンバー4家族が「にこるまい(笑米)」を購入してくれています。

そんな中、生徒の「食育体験農場」を受けてもらえないかと新潟市の国際調理製菓専門学校から依頼があり、2年前から「無農薬無化学肥料」の米作りを行っています。田植え、草取り、稲刈り、ハザ掛けを体験してもらっています。80名からの参加ですので、村の人口が倍以上になり、にぎやかな一日となります。

これからも思いついたら行動する事で、楽しい地域に繋がるように活動していきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、高齢化率が40%を超えてしまいました。

10人のうち4人が高齢者という状況だそうです。農業においても担い手である若い世代が少ない中でこれからどうすればよいのか? 1年でも長く耕作を続けるように援助するだけでは全く解決にはならないと思います。

少ない人数でコストがかからず、条件がいい耕作地であれば、担い手はいると思いますが、現状は厳しい状況で、将来のためにも今こそ場整備が必要だと思っています。農地パトロールで地域内を回ると耕作放棄地が増えてきています。昨年まで耕作していた農地が今年は作付けされず、草が生え、遊休農地になっていました。

今まで自然環境を守ってきたのは水田づくりによる水保全など、こうした農業のはず。農業が衰退すれば自然環境も維持できない。条件がいい農地の整備を一刻も早く実現できればと思います。

編集後記

農業委員会だより「妻有のきずな第32号」をお届けします。

昨年末にちょっとうれしいお知らせが届きました。「妻有のきずな」を農業委員会だより全国コンクールに応募していたところ、新潟県予選を通過し、県代表誌として全国コンクールに参加することになりました。上位入賞を果たしたいところですが、結果は如何に・・・

【事務局】

農地のお悩み相談は、
お近くの農業委員・農地利用最適化推進委員、または農業委員会事務局まで。